

# 《京都》御所と離宮の葉(おり)

其の五



## — 京都御所 —

せいりょうでん し しこまいぬ  
清凉殿の獅子狛犬



みちようだい

神社仏閣などでよく目にする狛犬ですが、清凉殿御帳台の前にも、獅子と狛犬がいます。平安時代の頃から御帳前に置かれるのが例でした。木彫彩色の高さが約50cmのもので、向かって右が獅子とされ、口を開いており、向かって左の狛犬とされる方には角があります。台座は胡粉地に雲形文様があり、裏側に宝永5年(1708)8月調進と記されていますが、獅子狛犬本体は、それ以前の作のものと言われています。



この獅子狛犬は幾たびか修理が重ねられたと思われるが、天保13年(1842)に修理されたときには、足の欠けた部分については、足が動いたことがあって切ったことがあったものなので、継ぐに及ばないとされたとの話があります。

なお獅子狛犬はこの他にも、いま飛香舎にある御帳台(明治天皇御即位に使用)の前にほぼ同じ大きさの木彫のものが置かれています。



Ⓔ マークは、御所・離宮の外側から、いつでもご覧になれます。

Ⓕ マークは、参観でご覧になれます。申込み方法は、[参観要領 - 京都御所 \(kunaicho.go.jp\)](http://kunaicho.go.jp) をご覧ください。

Ⓖ マークは、春と秋には申込みが必要のない一般公開の際にご覧になれます。下記にて日程等をご確認ください。参観要領 - 京都御所 ([kunaicho.go.jp](http://kunaicho.go.jp))

Ⓗ マークは、通常公開していない場所にあります。



現在の京都御所北側にある飛香舎は、藤壺とも言われ、紫宸殿、清涼殿とともに平安時代の古制を伝える建物です。

しちでんごしゃ  
平安宮内裏には七殿五舎

こうきゅう  
と総称される後宮の殿舎があり、飛香舎はその一つで

こきでん  
した。七殿は、弘徽殿、  
じょうきやうでん れいけいでん とうかでん  
承香殿、麗景殿、登花殿、

じやうがんでん せんようでん じやうねいでん  
貞観殿、宣耀殿、常寧殿

ひぎょうしゃ ふじつぼ  
で、五舎は飛香舎(藤壺)、

ぎやうかしや うめつぼ しょうようしゃ なしつぼ しげいしゃ きりつぼ しゅうほうしゃ かみなりのつぼ  
凝花舎(梅壺)、昭陽舎(梨壺)、淑景舎(桐壺)、襲芳舎(雷鳴壺)です。馴染みの薄い殿舎名もあるかもしれませんが、五舎には源氏物語などでみられる〇壺の別称がありました。飛香舎の藤壺のように、別称は壺庭にある木によって呼ばれたもので、襲芳舎の雷鳴壺は、へきれき霹靂の木(落雷を受けた木)があったことによるようです。平安時代、飛香舎では「藤花宴」が催されたことが記録に見えています。

かんせい  
時代と共に七殿五舎は廃絶しましたが、江戸時代後期寛政期に造営された内裏で飛香舎が復活しました。ただ平安宮内



裏時は清涼殿に近いところにありましたが、復活した飛香舎は御所北側で、造営当時は廊下で繋がってはいったものの、清涼殿からは遠い位置になりました。

飛香舎の別称の元ともなる藤ですが、現在の藤の種類はノダフジで、高さ1.9m幅3.3m奥行3mの藤棚に満遍なく枝を張っています。毎年ゴールデンウィーク頃に咲き誇り、今年も御所北側で淡い紫色の花を咲かせました。



この小襖は以下のとおり展示されます。

明治天皇百年祭記念  
第二回「明治天皇六大巡幸」展  
(平成25年10月12日～11月24日)  
明治神宮文化館 宝物展示室  
(東京都渋谷区代々木神園町1-1)  
にて展示

御花御殿は御常御殿の北側にあって、東宮や親王の御殿とされました。北・東・南の三方を縁座敷に囲まれて四部屋が田の字のように並んでいる書院造りの御殿です。

四室のうち、南東にある部屋を上の間と呼び、その南側の床の間横にある袋棚に小襖8枚があります。上の段に「<sup>うちゅうさぎ</sup>雨中鷺」、下の段には、「<sup>せっちゅうからす</sup>雪中鳥」が画かれており、<sup>しやうえい</sup>絵師は狩野正栄で寛政度の内裏でのものが現存しています。



<雨中鷺>

明治天皇は、六大巡幸の第4回目、明治13年(1880)6・7月山梨三重両県・京都府巡幸の際に京都御所に滞在されましたが、『明治天皇紀』7月19日の条によれば「花御殿袋棚の小襖に雨中柳鷺の図を描けり、狩野正栄の筆なり、天皇深く之れを賞鑑し、池原香稗<sup>りんも</sup>をして臨摹せしめたまふ」とあります。



<雪中鳥>

<sup>てんと</sup>東京奠都から10年余り、以前過ごされていた京都御所内を回り、この小襖をご覧になり、巡幸に同行していた国学者の池原香稗御用掛に模写を命じられたものです。



しゅもく

平成24年に葺替えが終わった撞木廊下(背後に見えるのは小御所の屋根)

撞木廊下は、鐘等を鳴らすT字型の撞木と平面形が似ていることからそう称されます。



檜皮葺の模型。日華門近くの回廊に置いてあります。

日本には古くから伝わる植物性の屋

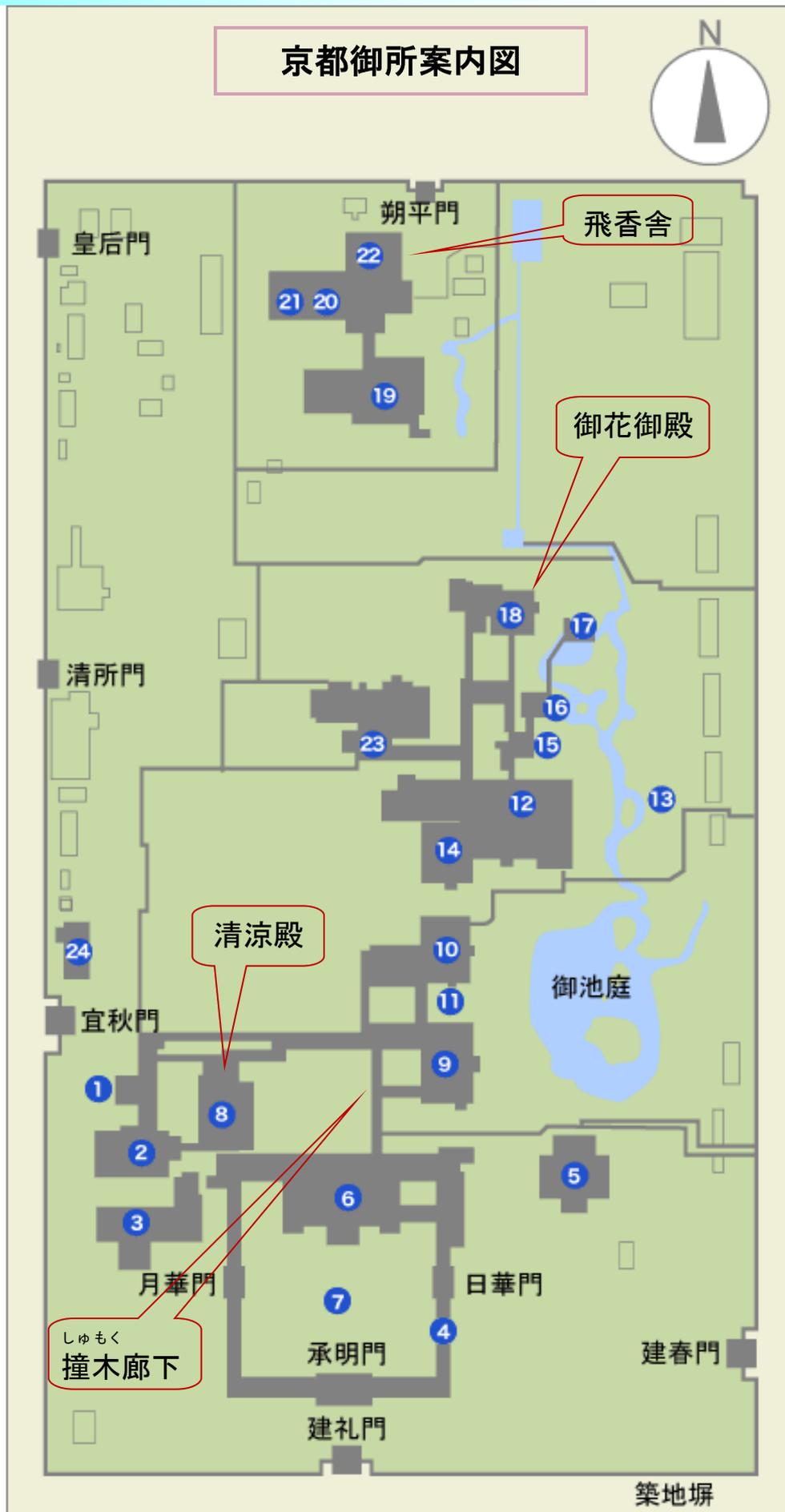
根葺工法として、ひわだぶき こけらぶき かやぶき檜皮葺、柿葺、茅葺などがありますが、その中で檜皮葺は最も格式の高い技法であり、京都御所御殿の他にも神社など多くの有形文化財で見ることができます。

檜皮葺は、樹齢70年以上の檜の立ち木から荒皮(最初の樹皮)を剥いたあと、8年程度経過してできる黒皮を再び剥いて使います。それを長さ75cm、幅先端(軒先方向)15cm、末端10.5cm、厚さ1.5mm程度の笏のような形に成形し、1.2cmずつずらしながら重ね、竹釘で固定していきます。

京都御所各御殿の屋根は、檜皮葺と柿葺、銅板葺、そして瓦葺でできています。現在行っている檜皮葺・柿葺の屋根葺替工事は、平成元年から始まりましたが、全体面積で約15,900㎡あり、今年度から来年度に行う対屋廊下約850㎡を終たいのやわれば、一連の葺替工事が終了することとなります。

因みに安政2年(1855)の京都御所造営後、檜皮葺屋根は明治18年(1885)から約10年間かけて最初の葺替えが行われ、次いで2回目は概ね大正初期から昭和初期にかけて、3回目は昭和32年～48年に行われ、今回は4回目の葺替えとなります。

- ① 御車寄
- ② 諸大夫の間
- ③ 新御車寄
- ④ 回廊
- ⑤ 春興殿
- ⑥ 紫宸殿
- ⑦ 南庭
- ⑧ 清涼殿
- ⑨ 小御所
- ⑩ 御学問所
- ⑪ 蹴鞠の庭
- ⑫ 御常御殿
- ⑬ 御内庭
- ⑭ 御三間
- ⑮ 迎春
- ⑯ 御涼所
- ⑰ 聴雪
- ⑱ 御花御殿
- ⑲ 皇后宮常御殿
- ⑳ 若宮御殿
- ㉑ 姫宮御殿
- ㉒ 飛香舎
- ㉓ 参内殿
- ㉔ 参観者休所



# — 仙洞御所 —

## あこせがふち 阿古瀬淵の石碑



石碑

仙洞御所北池には、六枚橋の石橋(長さ1.9m 幅1m)があります。その六枚橋の左側にある小さな

あこせがふち  
入江は、阿古瀬淵と呼ばれており、その正面築山の上に石碑(高さ120cm 幅50cm 厚さ32cm, 明治8年(1875)建立,

さんじょうにしすえとも せんぶん わたりただあき  
書:三条西季知 撰文:渡忠秋)があります。

碑は「紀氏遺蹟碑」と題し、本文はかなり長文の仮名交じり文で、江戸後期の歌人香川景樹が紀貫之の功績を称え、門人の渡忠秋らに貫之由縁の地を探させたこと、貫之の時代から千年の後でその地ははっきりしないが、遺蹟をこの仙洞御所の中と思い、土佐の松山寺(現:観音寺)に古くより伝わる

貫之の筆跡と言われる月の一字を鑄った鏡をこの地に埋め、碑を建てたことなどが書かれています。三条西季知と渡忠秋は共に歌人で、明治天皇の歌道に関わった人物です。

なお碑文に拠れば、貫之の遺蹟を求める際に、『無名抄』や『拾芥抄』といった書物を参考にしています。しかしそれらの書の記述に遡ると、貫之の邸宅があったとされるのは仙洞御所の南端あたりか、さらにもう少し南になると思われるのですが、ここに碑が建っている事情はよくわかりません。あるいはいま碑のある場所に狭く特定する意図はなかったのかもしれません。



# — 桂 離 宮 —

かつらがき

## 桂垣 作業工程



《京都》御所と離宮の栞(其の一)にて紹介しました桂垣ですが、今年(平成25年)の2月～3月に改修工事を行いました。作業工程を紹介します。



まずは、建仁寺垣を立ち上げます。



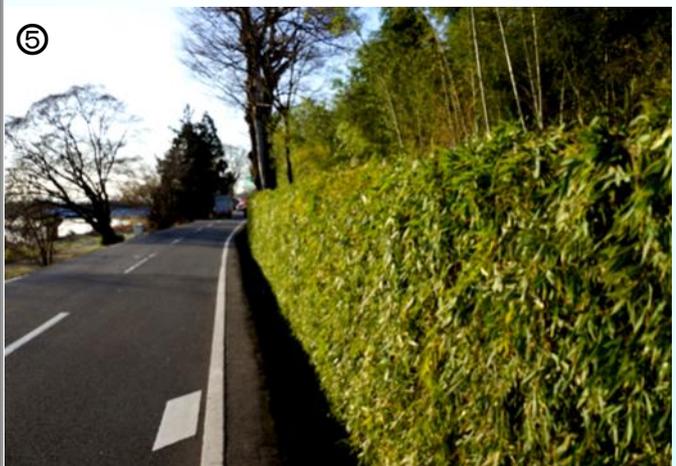
次に建仁寺垣にハチクの穂(枝)を編み付けていきます。



内側からの竹を曲げる部分に縦に割れ目を入れ、生垣として編みつけていきます。



内側から表にL字型に折り曲げた竹の部分写真です。○印の部分では折れ曲がっているのが見えます。



生垣として成形されて完成。



が桂垣の部分

# — 修 学 院 離 宮 —

なかりきゆう いわとやま ほうかほこ  
中離宮の杉戸絵「岩戸山」「放下鉢」

観



京都事務所保存のものを撮影

修学院離宮の中離宮客殿は、東福門院  
和子(後水尾天皇の皇后)がお使いだった女  
院御所奥御対面所を天和2年(1682)に移築  
した建物です。

客殿から隣接する楽只軒に通ずる西縁座  
敷にある杉戸絵に画かれているのは、毎年7  
月に行われる京都三大祭のひとつ祇園祭の  
山鉾の「岩戸山」と「放下鉢」です。この裏側  
には船鉾が画かれています。(現在は模写  
に入替え、原品は別に保存)

この杉戸絵の筆者は、かつて住吉具慶とさ  
れてきましたが、近年の研究により狩野敦信  
(寿石)とされています。敦信は他にも客殿二  
の間の襖絵「長谷寺の桜」などを画き、また  
江戸城本丸御殿松の廊下の障壁画「浜松に  
千鳥」を画いています。



これまでの「《京都》御所と離宮の葉」については、  
宮内庁ホームページの[こちら](#)からご覧ください。

<問い合わせ先>

〒602-8611 京都市上京区京都御苑3  
宮内庁京都事務所 代表電話：075-211-1211  
参観係直通電話：075-211-1215

其の五：平成25年7月31日発行

次回の発行は10月頃を予定しています。